

インクルーシブ教育システム構築に向けた 岩手県立総合教育センターの取組

岩手県立総合教育センター
教育支援相談担当
主任研修指導主事 外川 直美



岩手県立総合教育センターについて



所在地:岩手県花巻市

有名なもの:温泉

宮沢賢治

花巻東高校



岩手県立総合教育センターについて

教育支援相談担当

所員:9名(うち3名心理有資格者)
自立支援相談員:3名
教育相談補助員:1名
長期研修生:6名

基本研修
特別研修
希望研修
派遣研修(長期研修生)
要請研修・随時研修



研修

研究

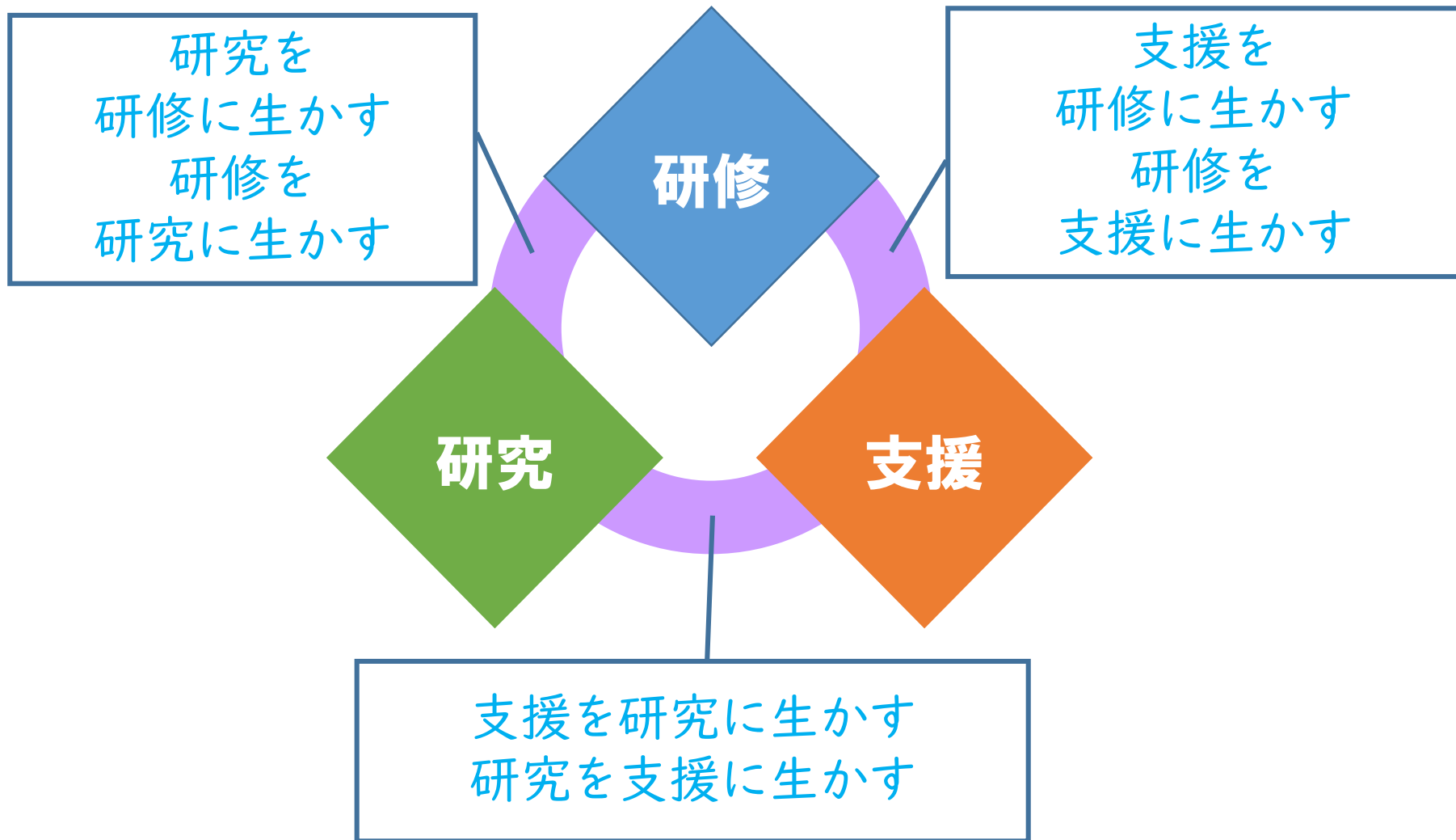
支援

いわて特別支援教育推進プラン
(2019~2023)に基づく研究
(所員・長期研修生)

電話相談
来所相談
訪問相談
要請研修・随時研修

今回の発表

この柱を3つのいかに関連づけて運営するか



人材育成としての研修

派遣研修（長期研修生）

1. 「教育相談コーディネーター」養成コース（定員4名）
平成22年度から開始（県教委の施策）
これまでに74名の修了生輩出
1年間の研修後、「学校心理士」資格取得を目指す
今年度4名（小1、高2、特支1）
令和4年度から修了生のうち希望する者に対し「教育相談エリア相談員」を県教委が委嘱
2. 教育研究コース
1年間それぞれのテーマに沿った研究を行う
3. 通級による指導担当教員養成研修コース（定員6名）
3ヶ月間の研修期間
主に「ことばの教室」担当者（LD通級に関する内容も網羅）

指導主事や研修指導主事（センター職員）などの人材育成

人材育成としての研修

長期研修生の育成へ業務を生かす

- 「教育相談コーディネーター」養成コース長期研修生の実践の場
 - 電話相談・来所相談を担当 ※担当するために試験あり
 - 毎年開催される「岩手県教育研究発表会」で事例発表
- 実際に相談やコンサルテーションをすることで、所属校に戻ってからすぐに生かせる
- SCやSSWなどとの連携のしかたを学ぶことができる

人材育成としての研修

継続型ステップアップ研修

- 小・中学校において初めて特別支援学級や通級による指導を担当する教員を対象
- 「各障がい種の指導の実際」、「保護者や教師間の関係づくり」等について研修を実施（Ⅰ）
- その後2年間継続して研修を受講することでレベルアップを図る（Ⅱ・Ⅲ）
- Ⅲまで受講完了することで県教委が研修認定を行う
- 研修状況や経験年数、実績等を加味しながら、特別支援教育担当 A 級・S 級、特別支援教育担当 SV を県教委が認定する
- 長期研修やステップアップ研修を修了した者のうち、地域の核となって特別支援教育を推進していくことのできる者を「特別支援教育中核コーディネーター」として県教委が委嘱

人材育成としての研修

高等学校における特別支援教育の推進

- 「養成研修コース」修了生が「高等学校における通級による指導」担当者として各学校の要となっている
 - 高等学校の特別支援教育コーディネーターを対象とした悉皆研修
 - 「高等学校における特別支援教育実践力向上研修講座Ⅰ～Ⅲ」の開設
 - Ⅰ：「高等学校における特別支援教育の推進」「発達障がいの基本的理解と対応」「アセスメントの意義と方法」「個別の指導計画の作成」
 - Ⅱ：「クラスワイドな支援と個別の支援」「合理的配慮の在り方」「個別の支援に生かす検査結果の読み取り方と検査結果を踏まえた指導・支援の検討」
 - Ⅲ：「キャリア支援と移行支援」「困難さを補うための教材教具・ICT活用」
- ※「通級による指導」実施校の教員養成も兼ねる

人材育成としての研修

教育相談

- ◆ 教育相談スキルアップ
(教育相談担当者研)
- ◆ 気づきと実践の教育相談
- ◆ 感情コントロールの力を育てる教師のかかわり
- ◆ ソーシャルスキルトレーニング
- ◆ 認知行動療法による不登校のアセスメントと支援Ⅰ・Ⅱ
- ◆ いじめ問題への理解と対応
(管理職対象)
- ◆ いじめを予防する学級集団づくり
(担任層対象)

特別支援教育

- ◆ 高等学校特別支援教育コーディネーター
- ◆ 小・中学校特別支援学級等設置校校長
- ◆ 高校特別支援教育実践力向上Ⅰ～Ⅲ
- ◆ 通常の学級における特別支援教育の視点を生かした支援
- ◆ 心理・発達検査の結果を生かした支援
- ◆ 特別支援教育新任担当教員
- ◆ 特別支援学校寄宿舎生活指導充実

大学教員等外部の専門家による最新の知見に基づいた学びを提供

研修を業務に生かす

研究へ生かす

- 研修講座を積極的に聴講することで、専門的な知識を得るとともに、研究の視点を広げる
- 教育支援相談担当の研修だけではなく、他室の研修講座や基本研修なども聴講可能

支援へ生かす

- 研修講座を聴講することで、支援者としてのスキルアップを図る
- 自身も講義を担当（アウトプット）することで、メタ認知が進み、さらなる研修や学びの深化へつなげる

研修を業務に生かす

研修へ生かす

- それぞれの研修講座の内容を共有し、よりニーズにかなう時宜を得た研修講座とするための改善の視点を得る
- 研修講座を積極的に聴講することで、専門的な知識を得ることで、支援者としてのスキルアップを図る
- 研修講座を運営する様子を長期研修生が目にするすることで、マネジメント側の視点も学ぶことができる

支援を業務に生かす

支援業務の一例

- 相談業務（電話相談、来所相談、訪問相談）
- 校内研修などの要請研修
- 教員が来所しての随時研修
 - 依頼のあるテーマ一例
 - ・発達障がいの理解と対応
 - ・UDについて
 - ・高等学校における通級による指導について
- 沿岸地区相談室の実施（相談対応、学校へのコンサルテーション）

支援を業務に生かす

支援業務へ生かす

- 校種や専門性を問わず相談対応することで、支援者としての力量が高まる
 - ①さまざまな校種の事例に触れることができる
 - ②アセスメントの視点が広がる
 - ③さまざまな心理支援のアプローチを学ぶことができる
 - ④さまざまな支援の方策を得ることができる
 - ⑤連携できる外部機関などの情報を得ることができる等々
- 嘱託医によるケース会議の開催（年10回）
- 大学教授をスーパーバイザーに委嘱し、アセスメントや支援に生かす

支援を業務に生かす

研修講座へ生かす

- 「いじめ」→県内全ての学校を対象とした特別研修（悉皆研修）の導入（6ヶ年計画、管理職・主任層対象、学級担任層対象）平成29年度～
- 「不登校」→「認知行動療法による不登校のアセスメントと支援研修講座」Ⅰ・Ⅱ（2年継続型研修）平成30年度～
- 高等学校の相談増加→「高等学校における特別支援教育実践力向上研修講座」Ⅰ～Ⅲ（継続型研修）平成30年度～
- 「学業」→来年度から学習支援に関する研修を見直し、よりニーズに合うように再編

支援を業務に生かす

研修講座へ生かす

- 脚色の上、支援の概要をケーススタディに活用
- 協議などの助言、教職員へのコンサルテーションの際に活用
- 研修講座を運営する際、外部講師に伝えて講義内容を検討する際の参考にしてもらう（研修ニーズの把握）

支援を業務に生かす

県教委との連携

- 相談件数や概況は毎月県教委生徒指導担当と共有
- 特別支援教育に関する動向は必要に応じて県教委特別支援教育担当と共有
- 県教委は次年度以降の施策を検討する際の参考に

研究を業務に生かす

研修講座へ生かす

- 研究成果物を研修のテキストや補助資料として活用
- 研修者に紹介し、学校での支援に活用してもらう

おそらく最も活用されている
成果物のひとつ
(当センターHPから
ダウンロード可)

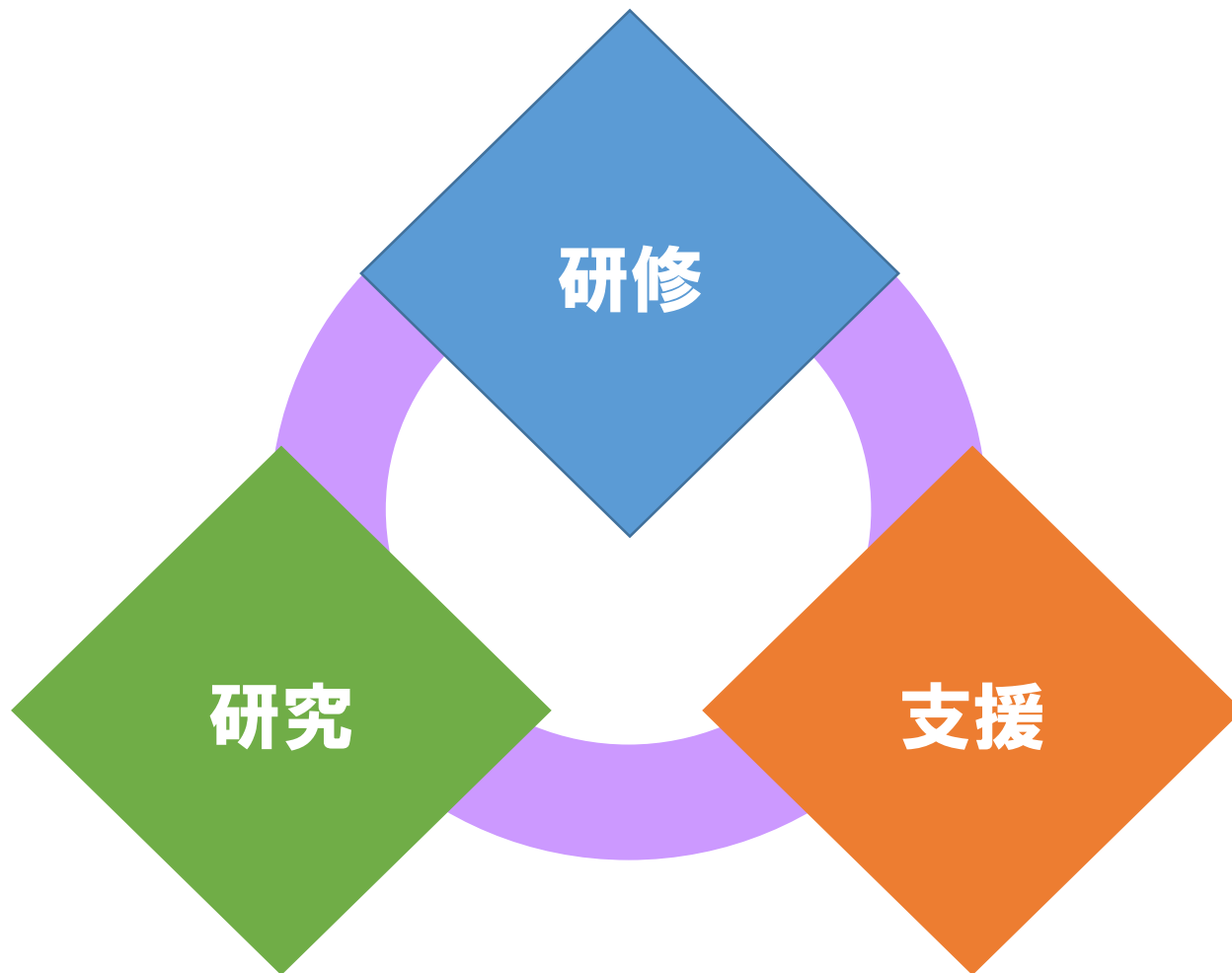


研究を業務に生かす

支援へ生かす

- 連携できる外部機関を探す際の資料とする
- タブレット等を用いて支援する際に過去の研究で用いたアプリ等を使ってみる
- 教員へのコンサルテーションの際、成果物を紹介し、支援の参考にしてもらう

「現場に役立つセンター」として



3つの柱を連携させながら業務遂行・改善

ご静聴ありがとうございました



インクルーシブ教育システム推進に向けた 今後の教育センターの役割

福井県特別支援教育センターが取り組む
「地域・学校支援」から考える

福井県特別支援教育センター
所長 岸野美佳



福井県特別支援教育センターについて

- 18歳までの特別な教育的ニーズのある子どもたちを支える県の機関
- 昭和58年開所
- 福井県の特別支援教育の推進発展を担う
- 主な4つの業務は、教育相談・教員研修・就学支援・保護者支援
- 全特セ加入機関のうちの独立機関（9機関）の1つ
- 所長、指導主事12名、事務職員2名（1名（次長）は兼務）

平成23年～取り組んでいる 地域・学校支援


インクルーシブ教育システム推進に向け、学校や地域が組織ぐるみで特別支援教育体制を整え、支援を要する子どもや担任、保護者を支えることができるようになるために、当センターが4つの業務を通して、学校や地域（特コ、特担、管理職、市町教育委員会など）に働きかけを行う


本日の報告の流れ

- 1 福井県の特別支援教育の現況と当センターが直面した課題
- 2 当センターの教員研修を見直した具体的取組
- 3 教員研修で大切にしたいこと
- 4 インクルーシブ教育システム推進に向けた「地域・学校支援」の今後と教育センターの役割について

特別支援教育担当教員研修						
研修名	若手研修	研修講座	新任特別支援学級 担任教員研修	特別支援教育 コーディネーター 養成研修	特別支援教育専門研修	
					特別支援教育 コーディネーター 専門研修	授業研究リーダー 研修
対象	特別支援学校 初任者研修 2年目研修 3年目研修	保・幼・こども園 小・中・高 特別支援学校 関係機関	初めて小・中学校の特 別支援学級を担当す る担任	幼・こども園・小・ 中・高・特 初めて特別支援教 育コーディネーター を担当する教員	特コとして、校内や 地域の特別支援教 育の推進に向けて、 学校や地域の調整 を行うための将来 中心的な役割を担 う者 特別支援学校にお いて、地域のセン ターの機能を推進 する立場の教員	所属園・校や地域で 研究を推進する役 割を担い、校内や地 域の特別支援教育 の推進に向けて、全 体の調整を行うた めの、将来中心的な 役割を担う教員
回数	—	8講座	5回(+選択研修)	4回+訪問研修 (+推奨研修)	5回+訪問研修	5回+訪問研修

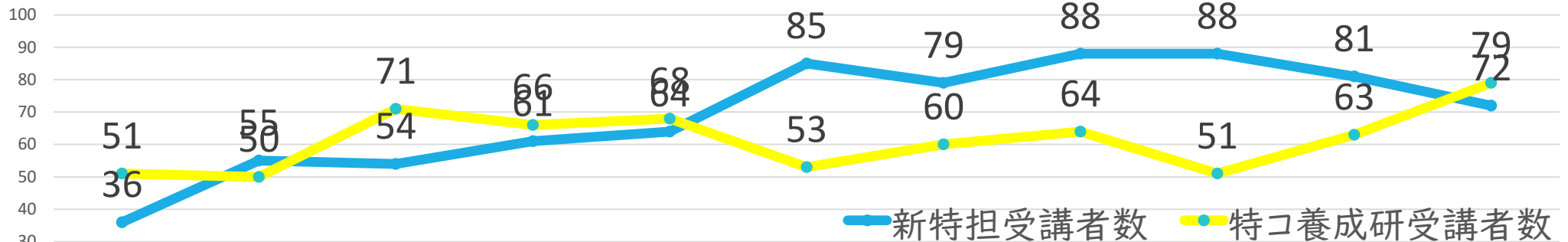
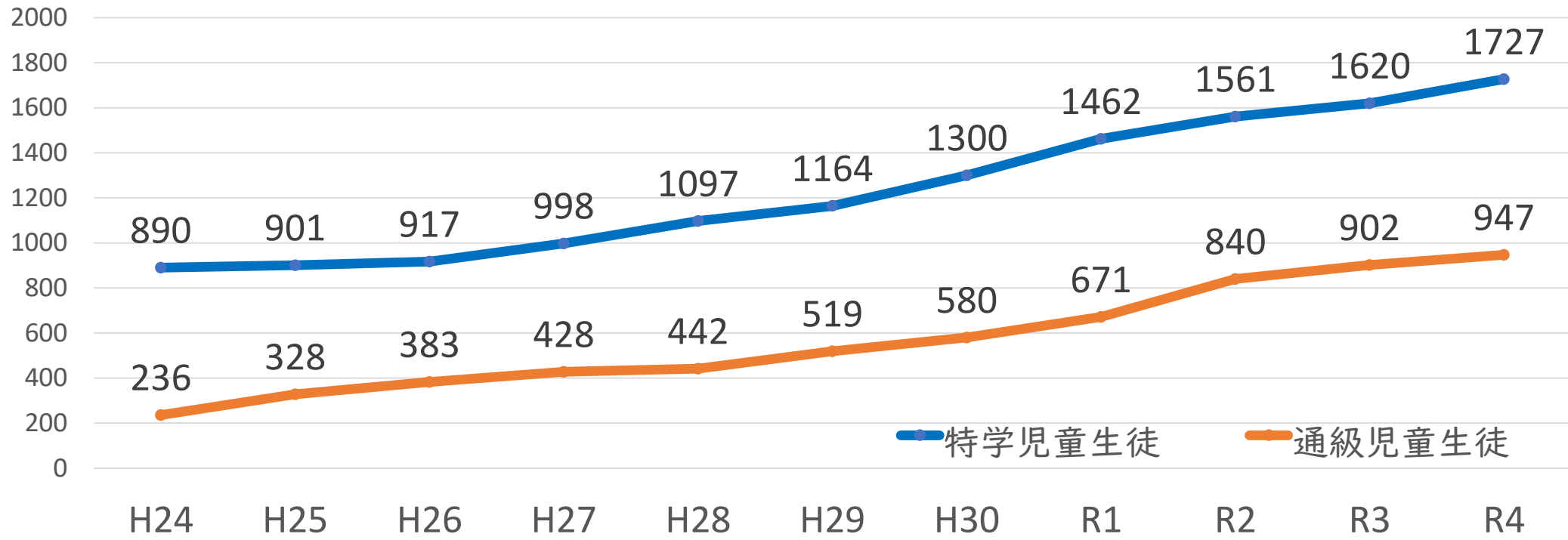
1 福井県の特別支援教育の現況と 当センターが直面した課題

- ① 令和2年は、コロナ禍、働き方改革による県下全ての教員研修の方針転換を迫られた。当センターにおいても、会場集合型中心の研修スタイルの見直しと研修時間の削減が急務となった 
- ② 特学在籍児童生徒数が年々増加し、しかも特担が毎年交替する傾向にある。経験の浅い担当教員が校内や地域で孤立しがちな現状を把握しているものの、新任の担当教員研修に追われている

担当教員:ここでは、校内や地域のインクルーシブ教育システム推進のキーパーソンの一員である特別支援学級担任(以下、特担)と特別支援教育コーディネーター(以下、特コ)とする 

特学等児童生徒数の増加の状況

福井県



1 福井県の特別支援教育の現況と 当センターが直面した課題

- ③ 早期から医療福祉のサポートを受けている子どもが増加し、小中学校に福祉関係者が多く入り込むようになった。一方で、学校側の福祉の知識や理解が追いついていない状況がまだある。当センターの教育相談においても、生活習慣や家庭養育環境、不登校にかかるケースが増え、福祉関係者を交えた支援会議に同席することも多くなってきた

特総研との共同研究と 他自治体の取組から学ぶ(R2、R3)

- 令和2年度

「特別支援教育担当教員の資質向上に向けた人材育成プロジェクト」

- 令和3年度

「発達障害支援に係る教員の資質向上に向けた人材育成プロジェクト」

令和2年度の取組概要

コアカリキュラム案に沿って、福井県内の既存の研修内容を整理することで、見えてきた当センター主催の教員研修の課題について検討した

【課題をして見えたこと】

▲福祉の知識は、担当教員の専門性の重要な要素であるが、福祉のことを学ぶ教員研修の位置づけが弱いことが分かった。

▲新任の担当教員の研修に注力してきたが、他自治体のような経験者研修の明確な位置づけがない。地域で指導的立場を担う次世代の特別支援教育担当教員を育成する人材育成の視点について認識を新たにした。

【今後検討していくこと】

●当センターで「教育と福祉との連携」に関する合同研修会を実施する。

●地域で指導的立場となる次世代の担当教員の育成を、当センターの教員研修で管理職や市町教委の協力を得て行う。知識注入型だけでなく、校内や地域の実状に合わせて取り組む実践型研修が有効である。当センター既存の特別支援教育専門研修がまさに実践型研修であり、次世代の人材育成に活用していく。

令和3年度の取組概要

教育と福祉との連携・協働の推進と地域で指導的立場となる次世代の担当教員の人材育成の視点から当センター教員研修を見直した

【取組】

- 教育と福祉との連携・協働検討会議を立ち上げ、福井市教委とともに、福祉との連携・協働に関する現状と課題を整理、合同研修会の在り方を検討。そのうえで当センター、福井市教委それぞれで合同研修会を実施した。
- 既存の特別支援教育専門研修の対象者を、将来地域で指導的立場となるミドルリーダー・中堅の担当教員として、市町教育委員会からの推薦という形で研修を価値づけて実施した。

2 当センターの教員研修を見直した具体的取組

-①研修講座-

研修講座のオンライン聴講への変更と研修内容の精選を行った

- 見直しの観点は、受講者のニーズに応じた、より学びやすい教員研修とすること
- 研修の目的や内容を精選し、講座数と研修時間を削減した
- 会場集合型研修を、オンラインによる聴講形式に変更した
(R3は6/10講座、R4は5/8講座で実施)

	研修講座数	受講者数	1講座あたりの受講者数
H30年度	15	1,818	121.2
R1年度	16	1,763	110.2
R2年度	13	中止	—
R3年度	10	903	90.3
R4年度	8	1,107	138.4

2 当センターの教員研修を見直した具体的取組

-②特別支援教育専門研修(特コ専門研修・授業研究リーダー研修)-

これまでベテランの希望者が受講していた特別支援教育専門研修を、地域で将来指導的立場となるミドルリーダー・中堅の担当教員を対象とした研修として見直しを図った

- 担当教員研修は、新任対象とベテラン希望者の二極化の傾向にある
- 地域で将来指導的立場となる次世代の担当教員が経験の浅い担当者を支えながら、地域ぐるみで特別支援教育体制を整えていくビジョンを、特総研との共同研究で描く
- 孤立しがちな経験の浅い担当教員を、新任研修後もフォローアップする経験者研修が位置づいていない

R2 特総研との共同研究より スライド11参照

2 当センターの教員研修を見直した具体的取組

-②特別支援教育専門研修(特コ専門研修・授業研究リーダー研修)-

- 将来指導的立場となる次世代の担当教員を、既存の特別支援教育専門研修を活用して育成していく
- その候補者を市町教委とすり合わせ、市町教委から推薦してもらうことで研修を価値づけたうえで、管理職や同僚の理解を得て受講してもらう

	特別支援教育専門研修		受講者数
	特コ専門研修	授業研究L研修	
令和3年度	小2、特支I	特支I	4
令和4年度	小2、中1、高1	0	4

・手続きは定着しそうだ
・研修修了者の有効活用はまだこれから

2 当センターの教員研修を見直した具体的取組

-③教育と福祉との合同研修会の新設-

教育と福祉との合同研修会を開催し、担当教員や福祉関係者に広く参加を呼びかけた

- 学校では、担当教員が福祉関係者対応の窓口になることが多い
- 新任の担当教員研修の選択（推奨）研修として位置づけた
- 研修講座の1講座として、園や学校・医療福祉関係者に広く呼びかけた

	受講者数	
	教員	医療福祉関係者
R3年度	19	1
R4年度	50	15

R3 特総研との共同研究 スライド12参照

これまでを改めて振り返り、これからも

3 教員研修で大切にしたいこと

担当教員の主体的な学びとネットワークづくり

- 担当教員研修の受講者は、所属校(地域)の課題解決や受講者同士のつながりを研修に期待している。満足度も高い。担当教員研修の研修スタイルを今後も継続していくことを確認できた

特別支援教育担当教員研修			
新任特別支援学級 担任教員研修	特別支援教育 コーディネーター 養成研修	特別支援教育専門研修	
		特別支援教育 コーディネーター 専門研修	授業研究リーダー研 修

担当教員研修の研修スタイル

- ◆会場集合型研修とし、所属校（地域）の実践を持ち寄ってグループで意見交換をする
- ◆特コ養成研修や特別支援教育専門研修は、所属校（地域）での実践をより重視し、会場集合型研修（講義や演習、グループ協議）と訪問研修を組み合わせて実施する
- ◆特コ養成研修と特別支援教育専門研修の全ての受講者に当センター所員が伴走者として付き、各学校の実情やニーズに応じたサポートを行い、受講者の主体的な学びやネットワークづくりを支える
- ◆専門研修では、実践・振り返り・再構成のサイクルを通して、同僚や地域の仲間との実践と省察を積み重ね、学びを深めてもらう。1年通じて、福井大学教職大学院教員を助言者として迎える

これまでを改めて振り返り、これからも

3 教員研修で大切にしたいこと

通常の学級担任や教育以外の支援者の主体的な学びとネットワークづくり

- 知識習得中心の研修をオンライン研修とし、研修講座に位置づけて広報し参加を募ることで、特別支援教育への理解の裾野を、教育以外の支援者へ広げる
- 通常の学級担任のニーズが高いテーマ*を研修講座で取り上げることで、受講者や学校が自らのニーズに応じて選択受講しやすくなるとうい

*発達障がい、学習障がい、自閉スペクトラム症、授業のUD

これまでを改めて振り返り、これからも

3 教員研修で大切にしたいこと

地域の支援者の主体的な学びとネットワークづくり

- 当センター主催の教員研修の企画運営に加え、地域の専門家チームや自立支援協議会が主催する研修会にも積極的に協力する。地域で将来、指導的立場となり得る支援者（担当教員、福祉関係者）が知り合える場であり、当センターがそれらの支援者をつなぐ役割を担う

4 インクルーシブ教育システム推進に向けた 「地域・学校支援」の今後と 教育センターの役割について

- インクルーシブ教育システム推進に向けて、当センターでは「地域・学校支援」を掲げ、担当教員の専門性向上やその人材育成、管理職のリーダーシップ、同僚や地域の仲間との協働に視点をあて、教育相談や教員研修等を通して学校や地域の体制整備に協力してきた
- 「地域・学校支援」の取組で見えたことは、
 - ▲ 学校や地域が体制の立て直しを迫られ、体制の継続は難しい
 - ▲ 高等学校では蓄積してきた「地域・学校支援」のノウハウが通用せず、十分な貢献ができていない

4 インクルーシブ教育システム推進に向けた 「地域・学校支援」の今後と 教育センターの役割について

子どもと保護者、学校や地域との信頼関係を築き、子どもと保護者、学校や地域の声に真摯に耳を傾け、それぞれのニーズに合わせた柔軟な変更調整をしながら、これまでのネットワークを支えに「地域・学校支援」に取り組んでいく



教員研修一覧

特別支援教育担当教員研修

研修名	若手研修	研修講座	新任特別支援学級 担任教員研修	特別支援教育 コーディネーター 養成研修	特別支援教育専門研修	
					特別支援教育 コーディネーター 専門研修	授業研究リーダー研修
対象	特別支援学校 初任者研修 2年目研修 3年目研修	保・幼・こども園 小・中・高 特別支援学校 関係機関	初めて小・中学校の特別支 援学級を担当する担任	幼・こども園・小・中・高・特 初めて特別支援教育コーディネ ーターを担当する教員	特コとして、校内や地域の特別 支援教育の推進に向けて、学校 や地域の調整を行うための将来 中心的な役割を担う者 特別支援学校において、地域の センター的機能を推進する立場 の教員	所属園・校や地域で研究を 推進する役割を担い、校内や 地域の特別支援教育の推進 に向けて、全体の調整を行う ための、将来中心的な役割 を担う教員
回数	—	8講座	5回(+選択研修)	4回+訪問研修(+推奨研修)	5回+訪問研修	5回+訪問研修
R4 受講者数	(初)20名、(2年)16名、 (3年)13名	1,107名	72名	(小・中・高)79名、(特)6名	4名	0名
講師	講師： 高校教育課特別支援 教育室担当者(初任研)	講師： 県外講師、県内特別支援教 育担当者等	講師： 高校教育課特別支援教育室 小・中学校の特担	講師： 特別支援教育コーディネー ター専門研修修了者	講師： 福井大学教職大学院教員	講師： 福井大学教職大学院教員
受講の ポイント	特別支援学校教員の 基礎的知識や実践的 指導力を身に付けま す。	特別支援教育の基本から最 新の情報までを、県内外の 講師陣から学びます。通常の 学級担任が学べる講座も多 数ありますので、校内研修等 での活用をお勧めします。福 井県内の取組について情報 を得ることもできます。	初めて特別支援学級を担当す る教員の基礎的知識や技能を 身に付けます。 ※特別支援学校のセンター的機 能と協働した研修です。	特コに必要な基礎的知識や技 能を身に付けます。所属校に おける研修者の実践を、センタ ー・嶺南教育事務所所員がサ ポートします。 基礎的知識 校内支援体制(担任支援・チーム 支援・校内委員会)・保護者の相談 窓口・関係機関との連携・移行支 援・個別の教育支援計画・校内研 修の企画運営 など	所属する学校や地域の実情に合 わせて、学校や地域ぐるみで特 別支援教育の体制づくりに取り 組む実践研修です。福井大学教 職大学院による学校訪問や助言 を受けることができます。 ※福井大学教職大学院と連携した 研修です。	子どもが主体的に学ぶため に、校内や地域の授業や授業 研究会の運営について考える 実践研修です。福井大学教職 大学院による学校訪問や助言 を受けることができます。 ※福井大学教職大学院と連携し た研修です。
修了 資格					福井大学教職大学院 年履修 応募資格	福井大学教職大学院 年履修 応募資格

令和4年度 福井県特別支援教育センター特別支援教育担当教員研修

	特別支援教育コーディネーター(幼・小・中・高)			特別支援学級担任(小・中)		
	1年目	2年目以降	地域の核	1年目	2年目以降	地域の核
ねらい つけてほしい力	支援会議や校内委員会の運営、個別の指導計画の作成・活用など、自校の特別支援教育コーディネーターの業務に関する基礎的な知識や技能を身につける。	支援会議や校内委員会の運営、個別の指導計画の作成・活用など、自校の特別支援教育コーディネーターの業務を円滑に遂行することができる。	特別支援教育に関する最新の知識を身に付け、福祉等の関係者と連携しながら校内外の支援に生かすことができる。 校内や地域の特別支援教育の課題を捉え、課題解決に向けて学校や地域に働きかけることができる。	特別支援学級担任教員として必要とされる、特別支援学級の学級経営、学習指導、個別の指導計画、児童生徒理解に関する基礎的な知識や技能を身につける。	児童生徒の実態からねらいを考え、授業実践や学級経営の力をつけていく。 校内の特別支援教育のリソースとして、指導力、校内のコーディネート力を身につける。	特別支援教育に関する最新の情報を身に付け、授業実践や学級経営に活用していく。 地域の特担とのコミュニティを作り、経験の浅い特別支援学級担任のサポートができる。
主催する研修等	・特別支援教育コーディネーター養成研修 ・研修講座	・研修講座 ・市町と協働した取組、現職教育の協力 等	・特別支援教育コーディネーター専門研修 ・研修講座	・新任特別支援学級担任教員研修 ・研修講座 ・基本研修(初任者研)サポート	・研修講座 ・基本研修(2年目研・3年目研)サポート ・市町と協働した取組 等	・授業研究リーダー研修 ・研修講座
研修内容 方法	【特コ養成研修】 ・特コの役割 ・校内委員会 ・保護者支援 ・支援会議の運営 ・個別指導計画の作成・活用 ・校内研修の企画・運営 ・移行支援 ・実践報告 【研修講座】*	【研修講座】* 【市町協働】 (例) ・就学相談 ・校内就学指導委員会 ・教育と福祉との連携	【特コ専門研修】 ・将来地域の核となる人材となりうる教員に参加を依頼する。市町教委の協力を得る。 ・所属校の実情に合わせて、学校ぐるみで特別支援教育体制づくりに取り組む 【研修講座】*	【新特担任研修】 ・特担任の年間業務 ・先輩の実践から学ぶ(授業づくり、学級経営、交流及び共同学習) ・個別指導計画作成 ・学習指導案作成と実践 ・実践報告 【研修講座】*	【研修講座】* 【市町協働】 (例) ・就学相談 ・校内就学指導委員会 ・教育と福祉との連携	【授業研究リーダー研修】 ・将来地域の核となる人材となりうる教員に参加を依頼する。市町教委の協力を得る。 ・所属校または地域の実情に合わせて、地域ぐるみで特別支援教育の授業づくりに取り組む 【研修講座】*

【研修講座】*…R4年度は8講座開講。教員が各自、自身のニーズに応じて選択受講(発表補足資料③)

令和
4年度

発表補足資料③

福井県特別支援教育センター

研修講座

講座 No.	講座名	実施日	実施方法 予定会場	講師	講座内容
No. 1	発達障がい児者の 感覚と運動の支援	7/26 (火) PM	Microsoft Teams	長崎大学生命医科学域 教授 岩永 竜一郎 氏	「姿勢保持が難しい」「周りの音で集中できない」「筆圧が強すぎる」「不器用さが顕著」など発達障がい児者に見られる感覚処理や協調運動の問題に目を向け、発達障がい児者の特性の理解と支援について学ぶ。
No. 2	発達障がいの基礎 —思春期・青年期—	7/27 (水) PM	Microsoft Teams	前 神奈川県立総合教育センター 教育相談専門員 笹谷 幸司 氏	発達障がいのある思春期・青年期の生徒の特性や支援の基本について、共生社会に向けた取組や障がいのある生徒もない生徒も共に学び育つインクルーシブ教育実践推進高等学校におけるエピソードから学ぶ。
No. 3	特別支援教育の視点で考える 授業のユニバーサルデザイン —特別支援教育の視点と 教材研究の視点をつなぐ—	8/2 (火) PM	Microsoft Teams	広島県廿日市市 教育委員会 特別支援教育アドバイザー 山田 充 氏	通常学級におけるユニバーサルデザインを意識したクラスづくりや授業づくりについて、子どもの困り感や困難さの背景を分析し、手立てを見極めて支援していく具体的な実践例から学ぶ。
No. 4	福祉と園・学校との連携 —困り感を抱える子どもと保護者を 支えるために—	8/4 (木)	ユー・アイ ふくい	前 福井県発達障がい児者支援センター スクラム福井 相談員 野村 真弓 氏	福祉に関する基礎的知識と園・学校とつながる福祉の役割について知る。相談員としてかかわった様々な事例を通して、福祉と園・学校との連携のあり方や、保護者と共に支援を考えていく際に大切なことについて学ぶ。AMは講義中心、PMはグループ協議も予定。 ※半日参加も可能ですが、理解を深めるために1日を通した受講をおすすめします。
No. 5	読み書きに学びにくさのある 子どもへの支援 —いま目の前にいる子の 「わかった!」を目指して—	8/8 (月) PM	Microsoft Teams	安来市立 荒島小学校 教諭 井上 賞子 氏 ディスレクシアの成人当事者 井上 智 氏	文字が見えるのに読めないということは、どのような障がいがか当事者の思いや願いを知り、読み書きの支援の実際や合理的配慮について学ぶ。
No. 6	自閉スペクトラム症の 理解と支援 —子どもの困り感の理解と 具体的な支援—	8/19 (金) PM	福井市 きらら館	認定NPO法人日本ポーターズ協会 スーパーバイザー— 石川湖南支部 認定相談員 小坂 正栄 氏	それぞれの発達段階における自閉スペクトラム症の子どもの特性やかわり方、個に応じた支援のあり方を豊富な事例の紹介や演習を通して学ぶ。
No. 7	子どもの実態に応じた 自立活動の指導	8/24 (水) PM	Microsoft Teams	独立行政法人国立特別支援 教育総合研究所 研修事業部上席総括研究員 吉川 知夫 氏	多くの先生方が、自立活動の大切さを認識していても、実際の指導において悩みや不安を抱えている。本講座では、学校での実態把握から指導目標や具体的な指導内容の設定に至るまでの流れ、将来を見据えた視点などを改めて学ぶ。
No. 8	特別支援学級の取組 AM:小学校の実践報告とテーマ別情報交換 PM:中学校の実践報告とテーマ別情報交換	8/25 (木)	ユー・アイ ふくい	県内教員による実践報告 高校教育課指導主事	AM:小学校の特別支援学級における指導や学級経営について実践報告から学ぶ。また、参加者同士でのテーマ別情報交換を行う。 PM:中学校の特別支援学級における指導や学級経営について実践報告から学ぶ。また、参加者同士でのテーマ別情報交換を行う。 ※半日参加(AM/PM)または、1日を通しての参加が可能です。

2年目以上の特担および特コにおすすめ講座

No. 1 No. 4 No. 7 No. 8

高等学校の先生におすすめ講座

No. 1 No. 2 No. 5

研修講座の日程

* 詳細は実施要項をご確認ください
(開催約1ヶ月前に当センターホームページ上に公開します)

会場に集合して 開催する講座の日程

9:30~10:00 午前受付
10:00~12:30 午前の部
13:00~13:30 午後受付
13:30~16:00 午後の部

ご確認ください

新型コロナウイルス感染拡大の状況によって、会場への集合をとりやめ、Teamsでのオンライン開催に変更する可能性があります。接続に不安がある場合は、7/11(月)、7/15(金)の接続テストにご参加ください。

Microsoft Teamsで 開催する講座の日程

13:00~13:20 接続受付
13:20には必ず接続完了してください
13:30~16:00 講義



受講に当たってのお願い

- ※ 7/11(月)、7/15(金)に接続テストを行います。接続に不安がある場合は、ご参加ください。
- ※ 接続を安定させるため、できるだけ所属ごとに視聴する端末を共有し、有線でご参加ください。
- ※ 講義中の入退室は控えてください。
- ※ 講義の録画、録音、撮影は固くお断りします。

福井県特別支援教育センター

〒910-0846 福井県福井市四ツ井2丁目8番1号
TEL : 0776-53-6574
FAX : 0776-52-6272
URL : <http://www.fukuisec.ed.jp>
E-mail : tokuse01@pref.fukui.lg.jp (研修講座専用)



ホームページへの
アクセスはこちら

ご確認ください

開催の変更や開催有無の連絡

- 会場や実施方法の変更連絡は、当センターホームページ上で行います。
- 自然災害等で研修講座の開催が危ぶまれる場合、開催の有無について、前日に当センターホームページに掲載します。必ずご確認ください。

欠席される場合

- 欠席する場合は、事前に所属長から届け出てください。
- 欠席届は、当センターホームページよりダウンロードし、メールにてご提出ください。

受講申込 *申込期間 4/8 (金) ~ 5/27 (金) (先着順ではありません)

公立学校の方はこちら

福井県教育総合研究所 HP

「研修講座申込システム」からの申込

研修履歴が残ります!



- ① 研究所 HP のトップページから SSO でログイン後、「研修講座申込システム」にアクセスする。
- ② 「受講申込」→「新規申込」をクリックする。
- ③ カテゴリ欄で「特別支援」を選択して「検索」ボタンをクリックし、申込みたい研修講座を探す。

※ 申込方法の詳細は、研究所 HP に掲載される「研修講座申込システムマニュアル」をご確認ください。

※ 申込に関するお問合せは、特別支援教育センター（0776-53-6574）までお願いします。

私立学校、幼稚園・認定こども園、施設職員、支援員の方など
申込システムを利用できない方はこちら

「Microsoft Forms」からの申込

- ① 以下の URL またはコードから申し込みページにアクセスする。



<https://forms.office.com/r/ZuKR5viZuy>

- ② 必要事項を入力し、「送信」ボタンを押す。

※ 連絡用メールアドレスは、公用のものを登録してください。
(私用のWebメールや携帯メールのアドレスは控えてください)

講師紹介

No.1 岩永 竜一郎(いわなが りゅういちろう)氏
長崎大学生命医科学域 教授

長崎大学子どもの心の医療・教育センター副センター長兼務、医学博士、認定作業療法士。主な著書：「感覚+動作アセスメントマニュアル」(合同出版)、「自閉症スペクトラムの子どもの感覚・運動の問題への対処法」(東京書籍)

No.2 笹谷 幸司(ささや こうじ)氏
前 神奈川県立総合教育センター 教育相談専門員

インクルーシブ教育実践推進高等学校の校長を歴任。様々な講演会等の講師やシンポジストとして、高校の特別支援教育の理解啓発にご尽力された。高校における特別支援教育の推進に関する文部科学省有識者会議調査研究協力者、内閣府オリパラ心のバリアフリー委員等を務める。

No.3 山田 充(やまだ みつる)氏
広島県廿日市市 教育委員会 特別支援教育アドバイザー

大阪府堺市通級指導教室を20年担当。たくさんの教材を著書や講演会で紹介している。主な著書：「誤り分析で始める! 学びにくい子への「国語・算数」つまづきサポート」、「常駐型特別支援教育アドバイザーの学校サポート」(明治図書)

No.4 野村 真弓(のむら まゆみ)氏
前 福井県発達障がい児者支援センター スラム福井 相談員

社会福祉士。様々な相談ケースを通して、発達障がいの子どもや保護者が安心して地域で暮らせるように、園や学校と連携しながら支援に当たっている。保護者同士の仲間作り・情報交換の場として「ちち☆はサポートクラブ」を開催してきた。

No.5 井上 賞子(いのうえ しょうこ)氏
安来市立 荒島小学校 教諭

井上 賞子氏：教育学修士、特別支援教育士。特性のある子どもの学びの支援方法を全国の教師に伝えている。主な著書(共著を含む)：「特別支援教育 はじめのいっぽ! 改訂版」(Gakken)、「学びにくいさのある子への読み書き支援」(学研)。ディスレクシア当事者の夫との共著：「読めなくても書けなくても勉強したい」(ぶどう社)「夢見た自分を取り戻す」(エンパワメント研究所)

井上 智 氏：賞子氏の夫。ディスレクシアの成人当事者。

井上 智(いのうえ さとし)氏
ディスレクシアの成人当事者

No.6 小坂 正栄(こさか まさえ)氏
認定NPO法人日本ボーテジ協会 スーパーバイザー 石川湖南支部 認定相談員

石川県立保育専門学校非常勤講師、TEACCH プログラム運営委員。福井県内の特別支援学校で多くの研修や講演を行っている。共著：「自閉症の親のための早期療育プログラムの開発」「発達か気になる子どものためのポータープログラム入門」

No.7 吉川 知夫(よしかわ ともお)氏
独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 研修事業部 席総括研究員

特別支援教育における指導者の養成や教員の資質向上に関わる研修事業に携わる。専門は、肢体不自由教育、言語・コミュニケーション障害。主な書籍：「自立活動と各教科等の個別の指導計画の作成と活用ー『新学習指導要領に基づく授業づくり2』」(ジアース教育新社、分担執筆)

福井県特別支援教育センター

〒910-0846 福井県福井市四ツ井2丁目8番1号
TEL : 0776-53-6574
FAX : 0776-52-6272
URL : <http://www.fukuisec.ed.jp>
E-mail : tokuse01@pref.fukui.lg.jp (研修講座専用)

